



平成29年11月 1日

文教大学付属小学校

研究主題 「学ぶことを楽しむ！」

～文教大学付属小学校型 アクティブラーニング

学びの深化を目指して「自ら問い続ける子どもを育てる授業」～

今年度第5回の校内研究を行った。

これまで4回に渡って、今年度の研究主題である「学ぶことを楽しむ！～文教大学付属小学校型アクティブラーニング 学びの深化を目指して「自ら問い続ける子どもを育てる授業～」について研究を重ねてきた。

第5回目は、1年1組担任の古川 弘美教諭と5年1組担任の山口 拓哉教諭がそれぞれのクラスで国語科の研究授業を行った。

1年1組担任 古川教諭は、「一ばんのかくれんぼ上手は、だあれ？」（全8時間の本時3時間目）をめあてに授業を展開した。古川教諭は、フレームリーディング（文章全体を丸ごと捉え、文章の構造を捉え、筆者の主張を明らかにする手法）を授業展開に取り入れた。また、グループ学習を設定し、子ども間での「気づき」を重視した授業となった。児童は迷い無く、学習活動に取り組む事が出来ていた。



5年1組担任 山口教諭は、「第三場面を大造じいさん絵日記にまとめよう。」（全7時間目の本時4時間目）をめあてに、絵日記ワークシートを利用して、第三場面の情景描写や心情に着目させ、大造じいさんの気持ちの移り変わりを読み取るための授業を展開した。



研究協議会では、「共感・啓発」「課題・疑問」「教師」「児童」の4要素に沿って良かった点と改善すべき点を付箋に記載しグループごとにまとめ成果と課題の発表を行った。続いて、講師の東京学芸大学付属世田谷小学校 西川 義浩先生から指導・講評をいただいた。



西川先生からは、「子どもたちに、いかに脳に汗をかかせられるか」が重要であり、学習者主体の授業を造るためには、子どもの問い（感想）から出発する45分であること、必然性のある話し合い活動を設定すること、全文シートの活用をすることが大切であることをご教授頂いた。

今回、西川先生からご教授いただき「学習者主体の授業」について全教員が改めて考え認識することができた。今日の学びを日々の授業にいかせるよう、今後も研究を重ねていきたい。

